

平成20年度施政方針

「くらし日本」のまちづくり
「4万人都市復活大作戦」をさらに推進！

第372回白石市議会定例会が、2月13日から3月3日までの日程で開催されました。その中で、風間市長は施政方針演説を行い、平成20年度の市政運営の基本的な考え方を明らかにしました。平成20年度は「4万人都市復活大作戦」2年目の年です。仙台・宮城デスティネーションキャンペーンの本番を控え、さらなる市民総参画の共創によるまちづくりが必要です。そして、誰もが元気で安心して住みたい、住んで良かった、住み続けたい、「こころ豊かなふるさと白石」を創るために、全力でさまざまな事業を実施していきます。

施政方針で示した市政の運営方針とその戦略のあらましは次の通りです。なお、施政方針の全文は、市ホームページの「市長のページ」に掲載していますので、ぜひご覧ください。



▲2月13日、市議会定例会初日の施政方針演説

平成20年度の運営方針とその戦略について（骨子）

わが国の経済は、政府の主導してきた構造改革の取り組みもあり、緩やかな景気回復が続いているといわれていますが、地域経済や中小企業には依然として厳しい状況が続いています。さらに、原油価格の動向やアメリカのサブプライム住宅ローン問題が内外経済に深刻な影響を与え、景気の不透明感が強まっています。このような中、わが国は、厳しい財政事情の下、少

子化問題、社会保障制度の維持、地方経済の活性化、雇用格差、環境問題など多くの課題に対応していかなければならない状況にあります。一方、本市の財政運営は、国において、地方交付税の総額が3年ぶりの増加となるとの報道がありましたが、引き続き厳しい状況が続くと思われま。今後も、行財政改革に計画的に取り組む、健全財政を堅持することに努力し、地方自治体としての自主性・自立性を高めていかなければなりません。

本市では、第4次白石市総合計画の目標である「市民と行政のパートナーシップによるくらし日本」のまちづくりの実現に向けた具体的戦略として、平成19年度より「4万人都市復活大作戦」を掲げ、「しろいし」を頭文字として4つの柱からなる各種施策を着実に実行してきました。

平成20年度も、元気で活力ある白石市をつくるため、市民と共に協力し合いながら、市政の基本理念である「共汗」「共学」「共生」による「こころ豊かなふるさと白石」づくりのため全力を尽くしますので、市民の皆さまのご理解と、より一層のご支援、ご協力をお願いします。



▲大平小学校の放課後子ども教室の様子

「4万人都市復活大作戦」戦略
1 「しろいし」の「し」、「あ」わせあふれるやさしいまち「しろいし」の推進

- ①子育て支援
・「赤ちゃん誕生応援事業」の1人当たりの助成額を拡大
・15歳未満の子どもがいる世帯などにバスポートを交付し、協賛店舗で各種優待が受けられる「みやぎっこ子育て家庭応援事業」の推進
・乳幼児医療費の医療費無料の対象範囲を、通院の医療費も入院と同じ小学校入学前までに拡大
・「子どもを育てるヒント集」の改訂版を作成
・放課後子ども教室の実施回数 を拡充
②高齢者支援
・引き続き「ほっとゆきやっす

消と防止
・学校給食食材に地元産の新鮮で安全な食材提供を継続



▲昨年行われた田舎暮らし体験ツアーで田植えの体験作業

4 「しろいし」の「し」、「し」らいつとやすらぎのあるまち「しろいし」

- ①安全・安心なまちづくり
・自主防災組織の支援と助成
・防災関係機関との防災体制の連携強化
・しろいし安心メールによる安全で安心なまちづくりの推進
・交通安全教室などの開催による交通事故撲滅の実現
②環境対策
・「しろいしエコプロジェクト」(愛称)もったいない運動により、豊かな自然環境を保全
・合併処理浄化槽設置助成事業、市街地における未整備地区の公共下水道事業の継続実



▲2月に開催した自主防災組織リーダー研修会の様子

- るバス」サービスおよび生きがいデイサービスを推進
・老人クラブ活動やシルバー人材センター事業の支援
・市道白銀通り線側溝改良工事による歩道のバリアフリー化
③障害者支援
・障害者計画や障害福祉計画に沿った、サービスと基盤整備
④教育の充実
・「学校いきいきプラン」の継続による、障害を持つ園児・児童への特別支援など
・小規模特認校を小原小学校・小原中学校に適用させ、中学校一貫的な教育と、区域外の児童・生徒の受け入れ
・南中学校校舎建設工事の実施



▲昨年、ハーストビルを訪問した中学生の皆さん

- ①歴史のまちづくり
・白石城を核として、城下町回遊ルート、城下広場、さまざまな広場を積極的に活用
・白石城でのイベント、武家屋敷での伝統行事の再現による歴史的魅力の発信
②文化のまちづくり
・「地域コミュニティ育成支援事業(やる気懇談会)」の継続
・「やる気懇談会」を開催し、市民活動のネットワークを拡大
・「きらめき推進事業」を活用した、地域の文化・スポーツ・生涯学習などの事業支援
・ハーストビル市・登別市・海老名市・札幌市白石区との姉妹友好都市交流事業の実施
③生涯学習のまちづくり
・「白石市生涯学習フェスティバル事業」を実施し、「人づくり」「まちづくり」を推進
④定住化の促進
・白石市定住促進奨励金交付事業」の助成対象を、土地を取得した費用から土地と建物取得した費用に拡充
⑤企業誘致の促進
・企業立地促進のための環境整備と、既存企業のサポートによる産業の振興と雇用の拡大

- ③交流人口の拡大
・内容の充実した「田舎暮らし体験ツアー」の企画・実施
・南三陸町との交流事業を市民レベルに発展
④観光の振興
・10月から12月までの「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」で、観光ビジュアル活動の充実と努め誘客を促進
・50回を迎える全日本こけしコンクールの一層の充実
・JR白石駅前旧観光案内所を片倉小十郎のビジュアル施設とバス待合所の機能を持つ仮称「小十郎プラザ」として整備
⑤地域の活性化
・地元商店組合などが行う中心商店街活性化事業に対し、商工会議所との連携を図り、にぎわいの創出を支援
・各地域振興会などの活力や知恵を活かした特色あるまちづくりを支援
⑥農業の振興
・白石地域水田農業ビジョンを基本に生産者と一体となった推進
・「地域農業いきいき推進事業」担い手育成資金利子補給補助事業・農用地利用集積奨励補助事業」の活用を推進
・農業担い手への面的集積促進に必要な支援組織を設立し、優良農地などの耕作放棄の解